

事務事業名		介護認定システム運営事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)		
政策体系	基本目標	2 やさしくふれあいのある健康福祉づくり					担当組織	担当部	健康医療部	担当課	介護保険課	
	政策	3 助け合い生きがいを実感できるまちづくり					担当係	介護認定係	担当課長名	飯島一		
	施策	1 豊かで健やかな長寿社会の実現					新規事業・継続事業		継続事業			
	基本事業	3 介護保険サービスの充実と介護予防の推進					実施計画事業・一般事業		一般事業			
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名						
	19550	介護(保)	1	3	1	介護認定システム運営事業						
	事業区分		市単独事業・国県補助事業		市単独事業		任意的事業・義務的事業		義務的事業			
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	23 年度～ 年度		根拠法令 条例等	介護保険法 佐野市介護保険条例・規則		実施方法		直営		
	事業区分		事業分類		リーディングプロジェクト		市長マニフェスト		許認可・審査事務		該当なし	
	事業区分		市長マニフェスト		2-9							

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
介護保険者の介護認定審査判定事務を迅速かつ適正に処理するため、クライアント及びシステムを23年度から新機種をリースにより更新。			平成23年度からソフトを更新し、現機種をリース契約している。							
活動指標			単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)		
端末機の総数			台	13	13	13	13	13		
プリンターの総数			台	1	1	1	1	1		
OCR機器の総数			台	1	1	1	1	1		
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
介護認定システム(アイラビット)			対象指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)
端末機の総数			台	13	13	13	13	13		
プリンターの総数			台	1	1	1	1	1		
OCR機器の総数			台	1	1	1	1	1		
目的										
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)			成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
要介護認定審査事務を迅速かつ的確に処理するため、介護認定システムを適正に維持管理していく。			端末機の総数		台	13	13	13	13	13
			プリンターの総数		台	1	1	1	1	1
			OCR機器の総数		台	1	1	1	1	1
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
65歳以上の高齢者が、必要な時に適切な介護保険サービスが受けられるようにする。			上位成果指標		単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
地域密着型サービス事業所数			事業所	43	43	45	46	47		
一次予防事業参加者数			人	4,902	5,105	5,900	5,950	6,000		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)				
	国庫支出金	千円									
	県支出金	千円									
	地方債	千円									
	その他	千円	2,494	3,236	2,535	2,535	2,535				
	一般会計	千円									
	その他	千円									
	一般財源	千円									
	事業費計(A)	千円	2,494	3,236	2,535	2,535	2,535				
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
		保守委託料	1,430	業務委託料	702	保守委託料	1,471	保守委託料	1,471	保守委託料	1,471
		使用料及び保守委託料	1,064	保守委託料	1,471	使用料及び保守委託料	1,064	使用料及び保守委託料	1,064	使用料及び保守委託料	1,064
				使用料及び保守委託料	1,064						
人件費	人	1	1	1	1	1	1				
のべ業務時間	時間	20	20	20	20	20	20				
人件費計(B)	千円	78	79	79	79	79	79				
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,572	3,315	2,614	2,614	2,614	2,614				

事務事業名	介護認定システム運営事業	担当部	健康医療部	担当課	介護保険課	担当係	介護認定係
-------	--------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	旧システムは平成15年度に導入し、平成17年2月合併時にシステムのバージョンアップ及びクライアント追加買取により更新したが5年以上経過し、部品等の劣化また、システム保守点検会社平成23年3月をもって撤退のため、23年度から新機種の5年間リースによりクライアント等を更新した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	要介護認定制度の様々な改正により、入力データの種類も変化し、膨大なデータの処理内容も複雑になってきている。要介護認定審査会を迅速かつ適正に処理するためには、介護認定システムは必要不可欠なものである。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	TKCのTASKに合わせ介護認定システムのサーバークライアントも歩調を合わせるべきとの意見が出された。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
現状維持	現状維持により対象外

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 介護認定システムにより、適切な要介護認定の審査判定が行われることによって、被保険者の自立支援に資する良質な介護保険サービスの提供がなされるため、政策体系と整合している。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 介護保険法は介護負担を社会全体で保障するための制度である。介護認定システムは、介護状態の審査判定事務を迅速かつ適正に処理するものであり、保険者である市は介護認定システムにより適切に介護認定審査会事業を運営する必要がある。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 今後とも介護保険の円滑な運営をするため、機器のリースを続けなければならない。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がない	理由・改善案 迅速かつ適正な介護認定審査事務を維持するため、現在使用している機種及び台数を選定したものであり、向上の余地はない。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 今後の要介護認定者の増加に伴い、適正かつ迅速な審査判定を行うためにも削減の余地はない。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 介護保険法に基づく事務のため、受益者負担を求める余地はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 介護保険法等、国の制度が廃止となればこの事業は終了する。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																						
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×		低下		×	×	
				コスト																				
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○	×																				
	低下		×	×																				